

義務教育課長メッセージ

徹底しましょう

11月末のメッセージで、本格的な受験シーズンを前に、家に帰ってからの

- ① うつらないよう自己防衛！
- ② うつさないよう周りに配慮！
- ③ 習慣化しよう3密回避！

の徹底をお願いしました。

2月に入り、県内では、1月よりも感染者数が減少しているとはいえ、学校関係者が抗原検査、PCR検査を受けない日は1日もありません。また、中予地域を中心に、まだまだ感染者が散見されます。

そのような中、本日、県立学校の推薦入試が実施できたことは、大変ありがたいことと思っています。

学年末には大切な行事が続きます。中学生にとっては、高校入試はもちろん、どの学年も、重要な学年末テストが控えています。3月には、小中ともに、卒業式や子供たちが楽しみにしているお別れ会等のイベントが続きます。また、2月、3月に修学旅行を予定している市町立の小中学校は、昨日時点で55校あります。

今や、学校内の活動において、換気をしている状態で、全員がマスクをして、同一方向を向いて活動しているのであれば、新型コロナウイルスが次々と感染することはまずあり得ないという知見が共有されています。その証拠に、本県では、学校内で陽性者が出たとき、席が近いことだけをもって濃厚接触者、接触者に認定され、検査を受けなければならないというケースはなくなりました。

各学校が校内で感染を拡げないための対策をじゅうぶんに練り、気を抜くことなく継続されている中ではありますが、学校への聞き取りや、県に寄せられる声を受け、それでもなお、徹底すべきではないかというポイントを示します。

それは、【マスクを外した状態で距離が近くなる活動】を可能な限り避けるということです。

これまでに学校内で陽性者が出て、保健所が聞き取り調査をした結果、学校関係者が濃厚接触者、接触者に認定されるのは、ほぼこの条件に当てはまる場合です。例外としては、マスクはしていたが、適切な距離を取らず、大声を出していた、というケースです。

リスク回避のポイントは、「マスク」と「距離」にあると考えられます。そう考えたとき、本県における学校活動のリスクとしては、

① 体育館での運動（特に、球技）

② リコーダー等の楽器演奏

の2点が挙げられます。

裏を返せば、今、本県で「検査対象者有り」となるケースは、この2点到該当するものがほとんどです。

① については、

例えば、体育館で長時間バスケットボールを行うとき、マスクを外すことはやむを得ないものの、なるべく大きな声を出さないという意識を持たせることはできます。また、指導者については、常時マスクを着けているとしても、児童生徒に近付いて大きな声で指示を出すことは避けるべきです。

② については、

ある程度の人数がいる場合、全体でリコーダー演奏を行えば、必然的に距離が近くなります。そのようなときには、全体を半分又はいくつかのグループに分けて、演奏を行うグループと他の活動を行うグループを作り出す等の工夫が考えられます。演奏する者の数を減らせば、適切な距離を取ることが出来るのではないのでしょうか。

以上、今回は、なお一層の感染拡大防止対策について述べました。繰り返しますが、2、3月は、大切な行事が続きます。あれをしておけば、あれを避けておけば、と後悔することがないように、また、過剰な対策によって児童生徒を委縮させることにならないよう、ウイルスを正しく恐れ、取るべき措置を講じていきましょう。